

廃車のエアバッグ、シートベルトをアウトドア用品にアップサイクル

「テンマクデザイン」と「廃車王」、 異業種コラボで廃棄物削減に貢献

廃車買取サービス「廃車王」（運営元：(株)NGP、本社：東京都港区、佐藤幸雄代表取締役）は、アウトドアライフストア WILD-1（ワイルドワン）が展開するアウトドアブランドtent-Mark DESIGNS（テンマクデザイン）（運営元：(株)カンセキ、本社：栃木県宇都宮市、大田垣一郎代表取締役社長）とのコラボレーションにより、廃車となった自動車のエアバッグとシートベルトをアップサイクルした「薪バッグ」を製作、全国のWILD-1（計25店舗・オンラインストア含む）にて、9月26日より販売を開始しました。

(株)カンセキは、企業活動を通じた環境保護・社会貢献への取り組みを重要視しており、WILD-1では環境への負荷が少ない商品を積極的に取り扱い、また店舗周辺地域やフィールドの清掃活動を継続的に実施しています。また、テンマクデザインでは耐久性に優れた道具の開発や修理センターの対応を通じて、SDGsへの貢献に向けて様々に取り組んでいるところです。

一方、廃車王も使用済み自動車（廃車）の適正処理、自動車部品のリユース、自動車に使用されている素材の再資源化等により廃棄物を抑制するとともに環境負荷を低減し、自動車リサイクルを通じて持続可能な社会の実現に取り組んでいます。

使用済み自動車はリユース部品や資源として再利用される一方で、エアバッグやシートベルトの生地はほとんどがASR（シュレッダーダスト）となり、廃棄物として処分されています。エアバッグに関しては、事故の衝撃を緩和するために装着さ

れているものであるため、事故を起こさなければ利用されることがなく、そのほとんどがほぼ「新品の状態でも処分」されているのが実情です。

使用済み自動車を適正処理する過程でどうしても発生する廃棄物を削減させる、廃車王のアップサイクルの取り組みに関して(株)カンセキに賛同いただき、廃棄エアバッグやシートベルト生地のアウトドアシーンでの活用について検討した結果、今回の「薪バッグ」の開発に至りました。

エアバッグとシートベルトは、人命を守るために自動車に装着されることから非常に強い耐久性が求められます。一方で、近年のアウトドア人気から焚き火を楽しむ人が増えており、薪を運ぶための丈夫なバッグの需要も高まっていました。生地加工やシートベルトの縫い合わせなど、試行錯

誤を重ねてようやく完成したのがこの「薪バッグ」です。

様々な種類の車両から取り外していることから、生地の切りっぱなし感や、1枚ごとに大きさ、色見が違うなど、全てが一点物であり、よりアウトドアらしい雰囲気仕上がった自信作となっています。より多くの皆様にアウトドアシーンで使用いただくことで、限りある資源の有効活用、廃棄物削減の大切さを知っていただく契機となれば幸いです。

製品名： tent-Mark DESIGNS
エアバッグ 薪バッグ
販売価格： 税込1,980円
(本体価格1,800円)
販売場所： WILD-1 全店
(オンラインストアを含む)
販売開始日： 2023年9月26日



NGP、台風13号による水害発生を受けて 千葉、茨城、福島に対策本部を設置

迅速な対応で、被災地の復興を支援

台風13号の影響により、9月8～9日にかけて関東及び東北地方の太平洋側で大雨となりました。さらに千葉県、茨城県、福島県などでは8日に線状降水帯が発生し、各地に大きな被害をもたらしています。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、尊い命を落とされた方のご冥福をお祈り申し上げます。



千葉ヤード

各地での水害発生を受けて、NGPは9月13日に千葉県茂原市、茨城県高萩市、福島県いわき市に臨時ヤードを設置しました。千葉ヤードでは南関東支部の組合員、茨城ヤードでは北関東支部の組合員、福島ヤードでは東北支部の組合員が、9月19日から被災車両の引き上げ作業に臨んでいます。



茨城ヤード

今年に入り、各地で大規模な水害が頻発しています。NGPは、6月に愛知県豊橋市、7月に福岡県うきは市と秋田県湯上市に対策本部を設置しており、今回の3拠点を加えて全国6カ所ですべて復興支援に取り組んでいます。NGPは被災地の1日でも早い復興を支援するため、今後も迅速に対応してまいります。



福島ヤード

NGP、クール・ネット東京と「チャレンジZEV2030協定」を締結

CO₂ 排出削減に向けて連携

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合はこのほど、東京都環境公社 東京都地球温暖化防止活動推進センター（クール・ネット東京）と「チャレンジZEV2030協定」を締結しました。

「チャレンジZEV2030」とは、都内で新車販売される乗用車を2030年までに、二輪車を2035年までに100%非ガソリン化することを目指し、クール・ネット東京が自治体や民間企業、団体などと連携してゼロエミッションビークル（ZEV）*の普及広報を行い、都民及び事業者のZEV導入を後押しする取り組みのことです。

クール・ネット東京はZEVの普及だけでなく、その使用過程におけるCO₂排出削減への取り組みも重要であるとの考えから、自動車リサイクル分野との連携を検討していました。一方NGPは、2013年より富山県立大学、明治大学との産学共同研究で自動車リユース部品の使用によるCO₂排出削減効果を定量化し、自動車リユース部品の普及・啓発に取り組んできました。そしてこのほど、NGPがCO₂排出削減に向けた

「チャレンジZEV2030」の取り組みに賛同したことで、協定締結に至りました。

NGPは環境にやさしいZEVの普及・啓発に努めるとともに、自動車リサイクル事

業を通じて、SDGs・カーボンニュートラルへの各種取り組みを推進・拡大していくことで、自動車のサーキュラーエコノミーの実現に貢献してまいります。

「チャレンジZEV2030」Webサイト

<https://www.tokyo-co2down.jp/zero-emission-vehicle-portal>

*ゼロエミッションビークル（ZEV）：電気自動車（EV）、燃料電池自動車（FCV）などの総称で、走行時CO₂を排出しない環境にやさしい自動車のこと

ZEV チャレンジZEV 2030

NGP 今月のCO₂削減量



リユース部品利用に伴うCO₂削減量

令和5年8月：**1,870t**



リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

令和5年8月：**0.3t**

※自動車リサイクル部品産学共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品を含む）115品目を対象に算出した数値です。

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

自検協・全軽自協、世帯当たり普及台数を発表

軽四輪車の普及台数が4年ぶりに増加、登録車は微減傾向が続く

自動車検査登録情報協会（自検協）は8月17日、2023年3月末時点における自家用乗用車（登録車と軽自動車の合算）世帯当たり普及台数を発表しました（表1）。

それによれば、自家用乗用車保有台数は前年度から約9万台多い6,174万3,899台、外国人住民を含めた世帯数は前年度より約51万世帯多い6,026万6,318世帯でした。保有台数・世帯数ともに増加しており、世帯当たり自家用乗用車普及台数は昨年度から0.007台減少し1.025台となっています。都道府県別の普及上位は福井県、富山県、山形県で、世帯当たり1台以上普及していたのは39県でした。

また、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）は7月31日、2022年12月末時点の軽四輪車世帯当たり普及台数を発表しました（表2）。

軽四輪車の保有台数は前年より約25万2千台多い3,174万9,611台で、外国人世帯を除く世帯数は前年より約26万6千世帯多い5,849万3,428世帯でした。その結果、軽四輪車の世帯当たり普及台数は前年より0.0018台増加し、0.543台となりました。

同普及台数が前年比で増加したのは、2018年以来4年ぶりとなります。同普及台数は1977年から2018年まで43年連

続で伸びていましたが、2019年以降は軽四輪車の保有台数の増加は継続したものの、世帯数の増加率が軽四輪車の保有増加率を上回ったため、3年連続で微減となりました。

都道府県別の普及上位は長野県、鳥取県、佐賀県、島根県、福井県、山形県と続き、この6県では1世帯当たりの普及台数が1台を超えていました。普及率の低い順では、東京都、神奈川県、大阪府、千葉県、埼玉県、北海道、京都府、兵庫県となり、同8都道府県では1世帯当たりの普及台数が0.5を下回りました。

表1 自家用乗用車保有台数と世帯当たり普及台数（都道府県別・ランク順）
2023年3月末時点 出典：自動車検査登録情報協会

都道府県	保有台数	世帯数	1世帯当たり台数	順位	前年順位
福井	512,365	301,715	1.698	1	1
富山	707,132	431,110	1.640	2	2
山形	688,684	421,275	1.635	3	3
群馬	1,383,488	872,782	1.585	4	4
栃木	1,344,916	860,314	1.563	5	5
長野	1,381,014	891,350	1.549	6	6
茨城	1,994,443	1,298,834	1.536	7	7
岐阜	1,295,768	846,707	1.530	8	8
福島	1,217,246	796,575	1.528	9	9
新潟	1,383,356	914,487	1.513	10	11
山梨	560,442	371,974	1.507	11	10
佐賀	511,665	343,375	1.490	12	12
石川	726,904	497,350	1.462	13	13
鳥取	346,316	240,643	1.439	14	14
三重	1,162,450	812,795	1.430	15	15
島根	408,401	293,719	1.390	16	16
岩手	737,429	533,908	1.381	17	17
秋田	581,752	425,607	1.367	18	19
静岡	2,225,517	1,632,671	1.363	19	18
徳島	454,871	338,467	1.344	20	20
岡山	1,163,659	866,346	1.343	21	22
滋賀	816,606	610,361	1.338	22	21
香川	591,940	447,775	1.322	23	23
熊本	1,042,406	803,966	1.297	24	24
沖縄	890,836	693,790	1.284	25	25
宮崎	678,412	532,172	1.275	26	26
大分	694,238	546,685	1.270	27	27
宮城	1,300,287	1,035,949	1.255	28	28
山口	815,270	659,439	1.236	29	30
愛知	4,214,024	3,421,030	1.232	30	29
和歌山	541,803	443,470	1.222	31	31
青森	722,100	594,597	1.214	32	32
鹿児島	958,765	812,740	1.180	33	33
愛媛	743,137	656,678	1.132	34	34
高知	394,553	350,142	1.127	35	35
長崎	698,309	632,920	1.103	36	36
広島	1,461,112	1,334,658	1.095	37	37
奈良	650,967	607,397	1.072	38	38
福岡	2,633,334	2,519,442	1.045	39	39
北海道	2,784,087	2,804,281	0.993	40	40
千葉	2,842,411	3,023,394	0.940	41	41
埼玉	3,237,098	3,470,089	0.933	42	42
兵庫	2,315,012	2,601,174	0.890	43	43
京都	992,339	1,246,024	0.796	44	44
神奈川	3,057,996	4,512,592	0.678	45	45
大阪	2,779,895	4,462,498	0.623	46	46
東京	3,099,144	7,451,051	0.416	47	47
合計	61,743,899	60,266,318	1.025		

表2 軽四輪車保有台数と世帯当たり普及台数（都道府県別・ランク順）
2022年12月末時点 出典：全国軽自動車協会連合会

都道府県	保有台数	世帯数	1世帯当たり台数	順位	前年順位
長野	902,605	870,191	1.04	1	1
鳥取	242,720	237,408	1.02	2	2
佐賀	343,100	337,568	1.02	3	3
島根	292,069	288,135	1.01	4	4
福井	290,389	291,739	1.00	5	6
山形	414,825	416,834	1.00	6	5
山梨	342,790	360,736	0.95	7	7
新潟	840,983	902,991	0.93	8	8
沖縄	619,064	680,887	0.91	9	9
和歌山	398,248	438,516	0.91	10	11
徳島	301,992	333,543	0.91	11	12
宮崎	475,422	525,928	0.90	12	10
富山	375,222	419,085	0.90	13	13
秋田	372,892	422,848	0.88	14	14
岩手	464,053	528,476	0.88	15	15
高知	303,083	346,318	0.88	16	16
香川	381,473	436,998	0.87	17	18
鹿児島	700,028	802,294	0.87	18	17
岡山	733,139	844,319	0.87	19	19
群馬	717,314	836,005	0.86	20	20
三重	663,167	779,243	0.85	21	22
熊本	670,692	788,363	0.85	22	21
福島	668,462	787,177	0.85	23	23
岐阜	684,636	810,535	0.84	24	24
大分	449,583	534,811	0.84	25	25
長崎	509,725	624,672	0.82	26	26
愛媛	522,847	646,227	0.81	27	27
滋賀	473,325	588,698	0.80	28	28
青森	463,123	589,886	0.79	29	29
茨城	966,888	1,250,081	0.77	30	30
山口	496,345	647,765	0.77	31	31
静岡	1,199,412	1,576,575	0.76	32	32
栃木	632,715	834,727	0.76	33	33
石川	363,978	485,463	0.75	34	34
広島	835,300	1,298,277	0.64	35	35
宮城	639,190	1,019,575	0.63	36	36
奈良	358,798	597,869	0.60	37	37
福岡	1,374,060	2,457,859	0.56	38	38
愛知	1,699,322	3,270,089	0.52	39	39
兵庫	1,108,447	2,528,836	0.44	40	40
京都	522,317	1,200,992	0.43	41	41
北海道	1,201,158	2,771,039	0.43	42	42
埼玉	1,408,896	3,359,685	0.42	43	44
千葉	1,226,238	2,926,233	0.42	44	43
大阪	1,206,663	4,298,939	0.28	45	45
神奈川	1,033,223	4,389,940	0.24	46	46
東京	859,690	7,109,053	0.12	47	47
合計	31,749,611	58,493,428	0.54		

NGP組合員 かわら版

第34回経営者研修会を開催

経営者としての行動と心構えを学び、 事業の発展を目指す

第34回経営者研修会が8月30日～9月1日の3日間、BumB東京スポーツ文化館（東京都江東区）で開催されました。

研修会1日目には、小林信夫理事長から講話を受けました。小林理事長はまず、NGP入会時の自身の経験・苦勞を振り返るとともに、「先輩方にはもっと多くの苦勞があったと思います。私自身、仲間、先輩方がいたから乗り越えることができました。そして今があります」と、改めてNGPに対する感謝を表しました。

そして「私がNGPに入会してから特に大切にしてきたのは“三大信条”、“経

営者基本心得5ヶ条”、“社員教育心得10ヶ条”です。経営について、社員について、困った時、悩んだ時はいつも思い出し、気付きを得て前に進むことができました。皆さんには、すでに先輩方が築き上げた“礎”があります。先輩方の話を聞き、想いを受け継ぎ、NGPマンとしての芯は残さなければなりません、一方で時代に即した考え方、想像も必要となります。今回の研修を業務に役立てて、先輩方に感謝、敬意を払いながら、今の時代に即した経営で成長して欲しいと思います」と、受講者を激励しまし



た。

研修を終えて、リ・パーツ(株)坂井自動車の坂井風馬さんは「3日間の研修を経て、経営者となるための1年間が始まりました。今回掲げた目標を目指し、社員全員を引っ張り、改革し、考え、行動していきたいと思います」と、経営者としての自覚を高め、会社の発展に向けた決意を示しています。

NGP 協同組合本部 & (株)NGP 本社、 新事務所のご紹介

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合ならびに(株)NGPは、7月18日に新事務所へ移転いたしました。新事務所のエントランスは、白をベースにNGPのイメージカラーである青をアクセントとして、清潔感と落ち着きのある空間としました。会議室は窓を大きく取り、開放感を持たせました。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

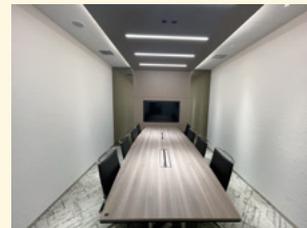
■新事務所住所：〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F



エントランスは清潔感と落ち着きのある空間を表現



エントランス左手には、これまでNGPが受賞した各賞のトロフィーを展示



打ち合わせスペースは上品で落ち着いた空間に



窓が大きく開放的な会議室。8月25日には4年ぶりとなる理事会を開催した



新事務所で気持ち新たに、お客様からさらなるご愛顧を得られますよう、スタッフ一同専心努力してまいります

組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
東海	有限会社川原商会	会社代表	代表取締役 田口雅輝	2023年3月29日

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1208 FAX:03-6705-1209
<https://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1212 FAX:03-6705-1201
<https://www.ngp.co.jp/>



FSC® 森林認証紙、ノン VOC インキ（石油系溶剤 0%）など印刷資材と製造工程が環境に配慮されたグリーンプリンティング認定工場にて、再生可能エネルギー 100%で印刷。印刷会社が所有する施設や車両、購入した電力などエネルギーの製造時に排出される CO₂ 全量をカーボンオフセット（相殺）した「CO₂ ゼロ印刷」で印刷しています。